

## ヨハネの手紙第一2章12-14節 「靈的誕生から成熟へ」

### 1A 子どもたち

#### 1B 罪の赦し

#### 2B 御父を知る特権

### 2A 若者たち

#### 1B 悪い者への勝利

#### 2B 神のことば

### 3A 父たち — 初めからおられる方

## 本文

ヨハネ第一 2 章を開いてください。私たちの聖書通読の学び、前回からヨハネの第一の手紙に入っています。今日は、2 章の前半部分を見ていきます。午後礼拝で一節ずつ見ていきますが、今朝は、2 章 12-24 節を見ます。

<sup>12</sup> 子どもたち。私があなたがたに書いているのは、  
イエスの名によって、  
あなたがたの罪が赦されたからです。

<sup>13</sup> 父たち。私があなたがたに書いているのは、  
初めからおられる方を、  
あなたがたが知るようになったからです。  
若者たち。私があなたがたに書いているのは、  
あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。

<sup>14</sup> 幼子たち。私があなたがたに書いてきたのは、  
あなたがたが  
御父を知るようになったからです。  
父たち。私があなたがたに書いてきたのは、  
初めからおられる方を、  
あなたがたが知るようになったからです。  
若者たち。私があなたがたに書いてきたのは、  
あなたがたが強い者であり、  
あなたがたのうちに神のことばがとどまり、  
悪い者に打ち勝ったからです。

手紙を読んでいる信者たちを、ヨハネは、「子どもたち」「父たち」「若者たち」と呼んでいますね。

すでに 90 歳ぐらいであろう長老です。教会の指導者として、長年、主に仕えてきました。数々の指導者がすでに教会に建てられていたでしょうが、彼らもヨハネを、自分たちを育ててくれた使徒として、深い尊敬を寄せていたことでしょう。そうしたヨハネから出てくる言葉は、おじいさんが愛情をこめて語りかけていることば、そのものです。

皆さんの中に、自分たちにとっても優しい、熟練した、高齢の霊的指導者の知り合いや友人、尊敬する人はいるでしょうか？私には、います。彼にとって、どんな人であっても、壮年の牧師でもだれでも、暖かく迎えます。親愛の情を込めて話します。けれども、ただの優しいおじいさんではありません。その語りことばは、知恵に満ち、時には厳しくもなります。端的に言うと、達観しているんですね。園優菜人々の言葉は、とても端的、簡潔です。子どもでも分かります。でも、深いです。心があぶり出されます。ヨハネはそのような、霊的な長老です。

彼は、それぞれの霊的段階の人々に、呼びかけています。子どもたち、とか、幼子たちというのは、信仰をもって霊的に新しく生まれて間もない人々のことです。そして、信仰の歩みを始めて、肉との葛藤、罪との葛藤をしている人々がいます。そういった人々を「若者」と呼んでいるのです。そして、霊的に整えられ、人々を導いているような人々を「父たち」と呼んでいます。

私たちには、それぞれの霊的な段階があります。生まれたばかりの状態。思春期のように、育っていく状態。そして、成人して成熟していく状態です。牧者チャック・スミスが、「愛」という本を書きました“Love – More Excellent Way”。その本の構成も同じになっています。第一部が、どのようにして神が私たちを愛してくださったのか？ということです。自分がいかに愛されているかを知ることが先です。第二部が、どのように自分が神を愛するのか？ということです。愛されている自分が、全き心で主を愛することです。それから第三部が、いかに自分を通して、隣人を神の愛で愛するのか？ということです。自分から始まり、次に神、そして周囲の人です。成熟したキリスト者は、隣人、自分以外の兄弟に向かっている人であります。

## 1A 子どもたち

### 1B 罪の赦し

12 節をご覧ください、「<sup>12</sup> 子どもたち。私があなたがたに書いているのは、イエスの名によって、あなたがたの罪が赦されたからです。」

「子どもたち」と呼び掛けています。福音書の中で、ヨハネはこう書きました。「1:11-12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」神によって生まれて、神の御霊によって生まれて、神に愛される子となりました。

そこで、そういった子どもたちに安心させたいこと、励まして確信を持ってほしいことがありました。それが、「イエスの名によって、あなたがたの罪が赦されたからです」であります。あなたがたの罪が赦されました。それはイエスがご自身の血を流して下さり、その罪を神が清めてくださったということです。このことを彼らに知ってほしい、何にもまして、何よりも初めに、イエスの名によって罪が赦されていることを知ってほしいと願いました。

というのは、信仰を持って間もなくの人たちは、これまで犯した罪の重さから、自分の罪が赦されたということの確信がたやすく揺らいでしまうからです。キリスト者になったのだから、自分は善い行いをしなければいけないのに、できていない。罪を犯してはいけないのに、また犯してしまった。もう赦されないのではないかと救われていないのではないかと疑ってしまいます。そこに悪い者、サタンが付け込んで、罪責感を抱かせて責めるのです。しかし、使徒たちは何度となく、絶対に罪に定められないと断言しました。「ロマ 8:1 こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」

罪の赦しは、人間にとって死活的なものです。神の前に立てないという問題があるし、また、罪意識を背負って生きることの重さは過酷です。イエス様は、中風の人に向かって、まず、「子よ、あなたの罪は赦された。」と言われました(マルコ 2:5)。ペテロは、聖霊が降ってから初めての説教で、罪示されたユダヤ人たちに、こう言いました。「使 2:38 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」まず、罪の赦しが必要なのです。

すべては、この恵みから始まるのです。不道德な女について、パリサイ人のシモンにこう言われました。「ルカ 7:47 ですから、わたしはあなたに言います。この人は多くの罪を赦されています。彼女は多く愛したのですから。赦されることの少ない者は、愛することも少ないのです。」彼女がイエス様を愛する行いに出られているのは、多く赦されたからです。キリスト者のすべての原動力は、神にいかに愛されたか、赦されたかにかかっています。

## 2B 御父を知る特権

もう一つ、新しく生まれて間もない人たちには、恵みがあります。それは、「御父を知っている」ということです。「<sup>14</sup> 幼子たち。私<sup>14</sup>があなたがたに書いてきたのは、あなたがたが御父を知るようになったからです。」幼子たちには、未熟さがその意味合いの中に出てきます。けれども、自分がどんなに幼いと感じても、知識においては圧倒的に少ないと感じていても、決してそんなことはない、子は親を知っています。父を知っています。「ロマ 8:15 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。」

この第一の手紙には、反キリストと呼ばれる偽教師たちが大勢現れることについて書いています。私も以前、信仰をもってさほど経っていない時に、異端カルトのグループに引っ張られそうになりました。聖書の知識を使って、三位一体が間違いであることを説かれました。混乱しました。しかし、バイト先で夜に、淋しく一人で仕事をしている時に、「それでも、僕は神の子どもだ」と言い聞かせている自分がいました。本当に霊的におかしくなっていたと思いますが、その確信が、私をそのグループから抜け出るきっかけとなったのです。子は父を知っているのです。

## 2A 若者たち

ですから、罪が赦されたということについて、私たちが始めなければいけません。そして次に、罪が赦されるだけでなく、罪に対して打ち勝つ力があることを、私たちは知らないといけません。ヨハネは、13 節でこう言っていますね。「**若者たち。私があなたがたに書いているのは、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。**」

### 1B 悪い者への勝利

若者にある強さを意識してのことです。または、成長しているということを指しているでしょう。若者には若者の弱さがあり、その葛藤の中で生きていて、打ち勝つこと、克服することが課題となっています。けれども、どうしても罪を犯してしまう。どうしてか？自分は悪魔に敗北しているのか？そう思うってしまう自分がいます。しかし、ヨハネは励ましているのです。「**あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。**」

悪魔は、エデンの園のところから働いていました。エバをそそのかし、アダムは妻のいうことを聞いて、罪を犯しました。それから、悪魔が世の支配者となりました。私たち人間が罪を犯してしまうのは、悪魔が未だ、人々の生活に支配権を持っているからです。「エペ 2:1-2 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。」

しかし、アダムが罪を犯した後に、すぐに主は、その悪魔のしわざを打ち砕く約束をくださいましたね。「創 3:15 わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」女の子孫は、蛇の子孫の脳天を打ち砕きました。ご自身が死なれ、悪魔の力をそぎ落とし、復活によって、諸々の霊の勢力は行列にさらされています。「ヘブル 2:14-15 そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。」そして、コロサイ書です。「2:15 そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。」

ですから、自分が悪い者に対して弱い、いつも敗北してしまっていると思っても、そうでないのだと言い聞かせないといけません。悪魔の力はすでに自分に及ばないのです。これを信仰で受け止める時に、罪に対する勝利を期待できるのです。

## 2B 神のことば

そして 14 節には、若者についてヨハネが、こう励ましています。「若者たち。私があなたがたに書いてきたのは、あなたがたが強い者であり、あなたがたのうちに神のことばがとどまり、悪い者に打ち勝ったからです。」

強い者なのだとおっしゃっています。これは、もちろん自分だけで強いではありません。むしろ、弱い時にこそ、強いとパウロが言ったように、神の恵みによって強くされているのです。「Ⅱコリ 12:9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」

そして、神のことばがとどまっている時に、悪い者に打ち勝っています。「詩 119:9 どのようにして若い人は自分の道を清く保つことができるでしょうか。あなたのみことばのとおり道を守ることです。」みことばこそが、私たちを罪から引き離す力です。

このようにして、罪の赦しを得た者が、次に自分が信仰によって、世に打ち勝っているということを知ることが、次の霊的前進に飛躍的に進みます。肉に従う生活ではなく、御霊に従う生活です。自分の罪に対しては死んでおり、キリストとともに墓の中からよみがえった、その新しいいのちを得ており、御霊に導かれて肉の欲望を満たさないという生活です。

## 3A 父たち — 初めからおられる方

そして父たちへの呼びかけがあります。「<sup>13</sup> 父たち。私があなたがたに書いているのは、初めからおられる方を、あなたがたが知るようになったからです。」ここからが、キリスト者の成熟という内容に入っていきます。

「父たち」という呼びかけですが、パウロは、テモテに対して、「信仰による、真のわが子テモテへ。」と呼んでいます(Ⅰテモ 1:2)。自分が信仰による父だと思っているのです。パウロがコリントの人々に対して父のような存在でした。「Ⅰコリ 4:15 たとえあなたがたにキリストにある養育係が一万人いても、父親が大勢いるわけではありません。この私が、福音により、キリスト・イエスにあって、あなたがたを生んだのです。」と言いました。つまり、自分自身は十分に成長し、成熟しており、人を信仰的に養い育てるような働きをしている人々のことを言っています。

初めからおられる方とは、手紙の冒頭にある言葉、「1:1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、自分の目で見たもの、じっと見つめ、自分の手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて。」であります。

父というのは、元にあるという意味合いがあるでしょう。「エペ 3:15 天と地にあるすべての家族の、「家族」という呼び名の元である御父の前に祈ります。」父は家を養い、家を守り、家を導きます。家においては、すべての前にいて、初めにいなければいけません。世の中で、しばしば「父の不在」という言葉がありますが、それは家のことについて、父が初めにいないことが問題なのです。家で起こっていることについて反応して、対応しようとしています、その時点で父としては失格です。家で起こっていることの始まりに自分がいなければならないのに、その責任を果たしていないからです。

ですから、人々の信仰を養い育て、守り、家を治めていく時に、父たちが最も必要としているのは、自分自身の父です。その父が、初めからおられた方、つまり神であられ、そして御子キリストが、父なる神を完全に表してくださったということです。

父にとって必要なのは、神の御前に自分自身が出て行って、自分の必要、自分の知恵、自分の力、自分の決断、すべてを神によって満たしていただくことです。神の前に行って、涙して、砕かれる勇気をもった男が、真の男であり、父になることができます。ダビデが、死ぬ間際にソロモンに対して、「I 列王 2:2 あなたは強く、男らしくありなさい。」と言いました。そして、コリントの教会にも、「I コリ 16:13 目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。雄々しく、強くありなさい。」と言いました。

このように、私たちが霊的な成熟に向かって進んでいることが、お分かりになったのでしょうか？罪に対して、許されているという確信が初めに必要です。そして自分は強い者なのだ、悪い者に打ち勝った者なのだ、と、皆していく必要があります。「ロマ 6:14 罪があなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの中にあるのです。」そして、より成長していくと、まず自分自身が主の前に出て行って、主から聞いて、それを人々に分かち合っていくという、リーダーシップを取っていきます。信者の模範となっていきます。どうか、みなさんがそれぞれ立っているところで、前進していきましょう。